

MINO-AKASAKA in 2017



美濃赤坂

みのあかさか駅
岐阜県大垣市
大正8年開業

貨車より源氏にふさわしき

そもそも美濃赤坂支線という存在は、旅客輸送を目的に設けられたものではない。実際、荒尾からわずか一キロ半ばかり、ゆるゆると進んだ電車は、広漠とした貨物ターミナルの端に遠慮がちに停まる。ホームは片面のみで頭端式ではないが、旅客線用の線路には車止めがあつて途切れる。ホームの先端から誘導路が駅舎につながり、誰も迎えてくれない古い建物は、表を駐輪場に塞がれて、いかにも所在なげだ。

本来、貨物路線として開通したのは一目瞭然で、付近で産出される石灰石の輸送を目的に、地元資本の西濃鉄道と施設

を供用している。ちなみに、西濃鉄道と西濃運輸は、会社としては無関係。もつとも、貨物輸送の方もかなり規模が縮小されて、構内は閑散とした雰囲気に包まれている。

そうした中に一服の清涼剤というべきか、木製だが新しい観光案内板が駅頭に立つ。白い岩肌が削られるばかりの殺伐とした環境ではなく、一帯は元々、赤坂・青墓と並び称される中山道の宿場町。いにしえには、平治の乱の一舞台として知られたところだ。都での戦で平家に敗れ、吹雪の逃避行の中、源氏が一族離散した青墓の地。ひとりはぐれた少年頼朝は、二十年後に天下人への階段を駆け上がる。そんな歴史絵巻にも思いを馳せる、終着駅の姿を保ってほしい。